

修理工事こぼれ話⑱ 一の神殿の縁葛木鼻

一の神殿の廻縁（まわりえん）には、縁葛（かんかずら）という部材があり、その縁葛と直交方向には木鼻が取り付けられています。そのうち、南西隅のものが欠失しており、今回その欠失分を新たに補足しました。しかし、補足分が完成した直後に、欠失したと思われていた木鼻が思わぬところから見つかりました。今回はその経緯を紹介します。

1. 修理前の状況

廻縁縁葛の木鼻は、特に日光・風雨にさらされる箇所であるため、他のものよりも腐朽が進みやすい部材です。その腐朽の影響か、一の神殿も二の神殿もその木鼻が1箇所ずつ脱落していました。行方を調べてみると、二の神殿のものは二の神殿の床下に保管されていたが、一の神殿のものは一の神殿周りには見当たらず、いつの時代かに脱落したのちどこかに行ってしまったと判断し、補足分を新たに作製することにしました。



修理前の一の神殿背面



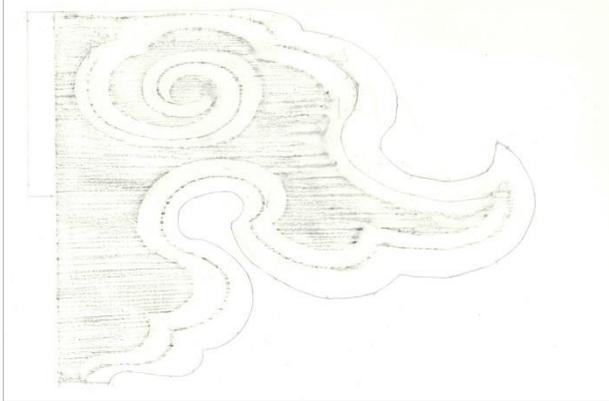
修理前の一の神殿床下



床下に保管されていた二の神殿縁葛木鼻

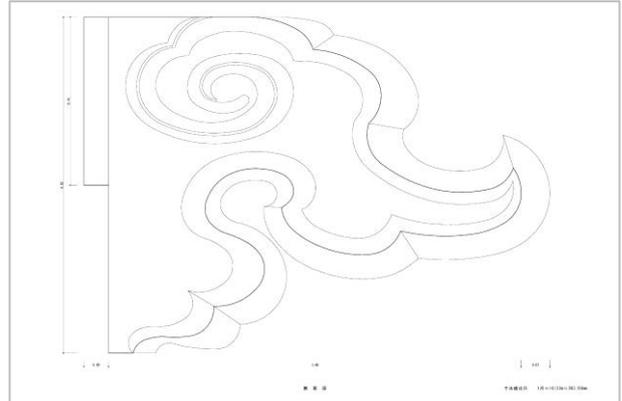
2. 補足分完成後

一の神殿も二の神殿も木鼻は同じ形状であるため、二の神殿の床下に保存されていた木鼻をもとに補足分を作製しました。



二の神殿縁葛木鼻 摺本

まず紙の上からカーボン紙でこすり彫刻を写し取ります。



二の神殿縁葛木鼻 図面

摺本と実測寸法をもとに、風化も考慮しつつ図面を作製します。



縁葛木鼻 作製

図面を木材に写し取り大工さんが作ります。



完成した縁葛木鼻

数日後に木鼻が完成したのですが、まさにその次の日でした。阿蘇神社の第1駐車場の建物には地震で倒壊した拝殿の彫刻を展示しているスペースがあるのですが、久々に私とその拝殿の彫刻を見学していると、その中に前日まで毎日見ていた彫刻とそっくりな彫刻があったのです。なんと、一の神殿の木鼻が拝殿の彫刻として展示されていたのです。



拝殿の彫刻展示スペース

3. 残る謎

展示されていた一の神殿の彫刻は、回収させていただき一件落着きましたが、大きく2つの謎が残りました。

1つ目は、なぜ拝殿の彫刻として展示されていたのかということです。可能性として一番高いのは、いつかの時代に脱落し、それが拝殿内に保管され、今回の地震で拝殿が倒壊した際、彫刻とともに救い出されたという流れでしょうか。その場合、12年以上前の写真を見ても既に脱落しているのので、保管したのもそれなりに昔の話となります。

2つ目は、今回回収した木鼻は、一の神殿・二の神殿の同じ縁葛木鼻と比べると形状が若干異なるということです。まず、縁束（えんづか）に取り付く仕口が異なります。他のものは蟻という仕口ですが、この木鼻は蟻の仕口はなく上から釘止めされていたようです。次に、全体的に横長の形状をしています。隅方向に斜めに出ているものは若干長く作られており、それを流用した可能性を考えましたが、隅の木鼻と比べたところ同じとは言えませんでした。そして、彫刻の曲線が他のものとは異なり緩やかな印象を受けるものとなっている点も挙げられます。

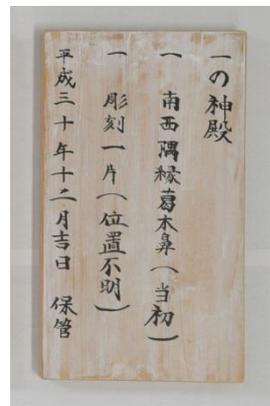


発見された縁葛木鼻



他の縁葛木鼻

文化財建造物の修理の際には、数多くの知見が新たに判明しますが、全てのことがわかるわけではありません。そのため、破損などにより建造物の部材としては再用できないがその建造物の歴史を伝えるのに適しているものは、屋根裏などに保管することが各所で行われています。この今回思わぬところから見つかった縁葛木鼻は、箱に収め一の神殿の屋根裏に保管し後世への資料とすることとなりました。



一の神殿の屋根裏に保管した部材（左）と保管内訳を示した木札（右）

どのような部材を保管したのか後世の方々がわかるよう、保管部材を入れた箱の中に内訳を示した木札を入れました。

一の神殿床下で見つかった位置不明の彫刻の一片とともに保管しました。

（石田 陽是）